



東京島しょ郷友連合会だより

13号

【発行者】東京島嶼郷友連合会
 【発行・編集責任者】大澤博紹
 【制作・印刷】オフィスYK

新年あけましておめでとうございます。新しい年が皆様にとって、希望に満ちた年となりますようお祈り申し上げます。

さて、今年は三十年に亘る平成の時代が終焉し、新天皇の即位による新しい時代の幕開けとなる年でもあります。また、対外的にも北方領土問題の解決が期待される年でもあります。我々連合会においても新しい時代に対応し、役員の英知を結集し連合会の運営に努めて参ります。

昨年度の連合会活動を振り返って見ますと、重点課題について、年間活発な議論・検討を重ねて参りました。役員の皆様にはご苦労をおかけし感謝しております。本年は、これらの課題に対する目



郷友連合会会長
大澤博紹

《ごあいさつ》

標を定め、①広報活動の推進につきましては『だより』は連合会及び各島の実施状況並びに連携、郷土愛を醸成する重要な役割を担っていることから、魅力ある広報誌を目指して参ります。②全島加盟の推進につきましては、早急に新島、御蔵島、青ヶ島の復帰と小笠原加入に努力して参ります。③財政基盤の改善につきましては、ようやく検討結果がまとまりつつありますので、この趣旨に沿うよう改善して参ります。④島巡り旅行につきましては、昨年十一月十一日に五十四名の参加の下、八丈島旅行を実施致しました。島の関係者との懇談会はもとより、雲一つない天候に恵まれ、大変有意義な旅行でした。西にそびえる八丈富士、東の三原山にまたがる大自然は、私たちが新鮮な空気で満喫させ、またみはらしの湯から見る景色は大変感動的でした。

終わりに島嶼の発展に各位のご支援ご協力をお願い申し上げます。皆様のご健康とご多幸を祈念して、新年の挨拶と致します。

おかげさまで129周年 2020年夏、新造船就航へ




旅行専門部長 河野秀夫
 今回で十四回目となる郷友会旅行は八丈島でした。十一月十一日の一泊二日総勢五十四名の旅行は、今回も素晴らしい自然と島の人達の温かさに触れて、改めて郷土愛を育む島巡りとなりました。その一端を広く皆さんにお知らせしたいと

行ってきました! 南国八丈島

(島巡り道中記)



Welcome to Hachijo Island
ようこそ八丈島へ

十一月十日(土)快晴
 八丈島には、東海汽船の大型客船橋丸と一日三便の飛行機で行くことが出来ます。今回は島の滞在時間を多く確保するため、羽田空港十一時集合としました。待ち合わせ場所の羽田空港第二ターミナルは横長に広く人も

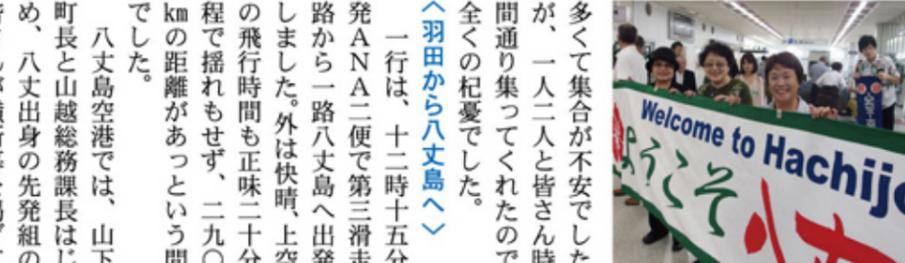
多くて集合が不安でしたが、一人二人と皆さん時間通り集ってくれたので全くの杞憂でした。

《羽田から八丈島へ》
 一行は、十二時十五分発ANA二便で第三滑走路から一路八丈島へ出発しました。外は快晴、上空の飛行時間も正味二十分程で揺れもせず、二九〇kmの距離があつという間でした。

八丈島空港では、山下町長と山越総務課長はじめ、八丈出身の先発組の皆さんが横断幕を掲げてサプライズな歓迎をしてくれました。

空港では、雄大な八丈富士をバックに恒例の集合写真をパチリ。

《八丈島役場訪問》
 貸切りバスで新庁舎の町役場を訪問し山越総務課長から約一時間スライドによる八丈島の現状、課題、観光施策などを詳



Welcome to Hachijo Island
ようこそ八丈島へ

利島のさざえはとにかくでかい! 利島の伊勢海老はとにかく旨い!

お問合せ・ご注文は
利島村漁業協同組合まで



東京都利島村東山
 TEL:04992-9-0326
 TEL:04992-9-0225
 利島村漁業協同組合
 組合長 梅田 寛

編集後記

感動の八丈島旅行は島めぐりの意義を十分実感させてくれました。河野さんと白井さんの記事は臨場感溢れる見事な道中記でした。慣れない記事の執筆と広告依頼に悪戦苦闘していると、不思議とふるさとに寄せる一途な気持ちだけは持ち続けていることを自覚する。これは連合会だより発行の効用である。「地ビール造りへの挑戦」という島の新しい取り組みへの取材や、「伊豆諸島の応援歌」の発掘などは時間をかけて追跡した新たな試みでした。また、発行部数の少ない中で、の広告掲載にご協力いただいたみな様にはただ感謝の言葉しかありません。ありがとうございました。

梅田 勉

編集委員
 大澤博紹(八丈島)
 高松 宏惟(三宅島)
 山口 勝子(大島)
 梅田 勉(利島)

細かつ、分かり易く説明していただきました。その人柄から、参加者は次々に島への思いを遺憾なく質問でき、有意義な懇談になりました。改めてこの場を借りまして山越課長に感謝申し上げます。
（なお懇談の詳細は3頁に）

「みはらしの湯へ」
頭を使った後は、希望者三十名で八丈島に七つある温泉の一つ、末吉温泉「みはらしの湯」でひと風呂浴びてきました。（町役場のご厚意で無料でした）露天風呂から見る景色は絶景で、遠く六十九km先の青ヶ島も微に眺めることができました。ちよつと温かめで何時までも入っていたい至福の一時間でした。



「八丈ビューホテルで懇親会」二次会へ
十八時から懇親会が始まりました。ご来賓として山下町長はじめ奥山町議会議長、岡本八丈島支庁長、山越八丈島総務課長、山下観光協会会長、浅沼末吉自治会会長、上ノ山連合婦人会会長、浅沼老人クラブ連合会会長の皆様がお忙しい中をご出席くださいました。

会は、八丈島会の沖山会長の総司会で始まり、大澤郷友連合会会長の親睦旅行の主旨や経過を含めた挨拶、来賓の歓迎のご挨拶と続き、食事タイムでは、明日葉やくさやなどの温かい郷土料理バイキングに、舌鼓を打ちつつ八丈島焼酎や差し入れの電気ブランを思い思いに堪能しながら、それぞれのテーブルで話の華が咲いていました。

綾小路きみまろ風のコースチュームに身を包んだ沖山会長の名司会によって、舞台上は各島の対抗戦の様相を呈し、島唄や歌謡曲を披露して大いに盛り上がりました。そして八丈島に来たらやはりシヨメ節、会場全体が一つになって唄って踊って

た。我々四名は服部屋敷で郷土芸能を楽しみ、裏見ヶ滝や足湯と温泉に入って、登龍峠展望台を回って島内一周してきました。

空港に到着して、他の組と合流しましたが、皆さんそれぞれ観光地巡りをして八丈島を満喫してきましたようでした。

【町役場との交流】
郷友連合理事 白井裕造 司会・八丈町総務課

山越課長 場所・八丈町役場会議室 日時・十一月十日午後一時四十分

総務課 山越課長 スライドを使いながら、山越課長より、次のとおり、八丈町について説明がされた。なお、人数分のアシタバ茶缶飲料が配られた。

(1)八丈島概要
八丈島の地勢 八丈島と八丈小島で構成。八丈島の大きさは、山手線一周と同程度。
ひよっこりひょうたん島のモデル島
北西部の八丈富士と南東部の三原山、二つの火山を擁する。

楽しいひと時を過ごし、二時間半の宴は瞬く間に開きの時間となりました。

宴会の余韻捨てがたく、大澤会長はじめ各島会長とご来賓の方等、総勢二十七名は、そのまま島の繁華街にあるカラオケ劇場「パイヤ」に繰り出しました。ここでも店の名の通り飲んで話して唄って、時折叫んでひっくり返って島の夜を堪能しました。

十一月十一日(日)快晴
【南へ北へ島内観光】
前日に続き、朝から天気も良く快適な八丈島の朝を迎えました。

昨日の料理に引き続きバイキング朝食も美味しくいただき、今日は町営貸切りバス二台、ガイドさん付きで八丈島の海・山・歴史・自然を隈なく視察しました。一人ひとりが島独特の名所旧跡の思い出を持ち帰ったでしょうが「黄八丈織元めゆ工房」や陣屋跡の玉石垣そして八丈富士から街中を一望できる「ふれあい牧場」などは、特に感動したのではないのでしょうか。

また地熱館では、十

年以上前に誕生した三原山と一万年前に誕生した八丈富士の東西の火山が融合して出来た八丈島の形状と、我が島々の成り立ちを比較して、自然環境や暮らしぶりの大きな違いから、東京島嶼の多様性を確認しました。

大賀郷にある「大吉丸」の昼食も、ホテルに引けをとらない豪華な郷土料理弁当で美味しく平らげました。食後の運動を兼ねて、八丈植物公園、南原千疊岩海岸を散策して八丈小島を間近に眺め、締め括りは「民芸あき」の豪華な品揃えに気分良くショッピングを楽しみました。

一日が瞬く間に過ぎて十六時、八丈島空港に帰ってきました。日曜日の最終便ということも



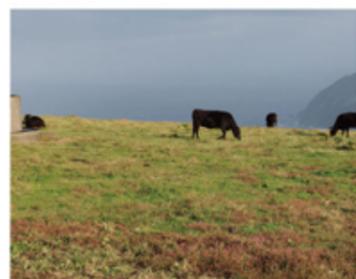
前年の神津島旅行を終えてから、連合会旅行をどのように実施すべきか役員会で議論すること一年余り、そして八丈島に決定して、今年四月の定期総会で募集し、最終的に五十四名もの方々が参加してくれました。事前準備や連絡等で不手際もありましたが、沖山会長はじめ、八丈島会の皆さんのご尽力ときめ細やかなご配慮により、飲み過ぎはありましたが、体調不良等の不測の事態もなく、無事に一泊二日の八丈島旅行を終えることが

出来ました。

旅行会の目的である「他島の会員とも親睦を深める。行政・地元関係者との交流を図る・各島の歴史・伝統文化の素晴らしさを再発見する。」というところは一定程度達成出来たのではないでしょう。引き続き、この島巡り旅行を通して、友人・知人に島の魅力を発信して、観光産業を盛り上げると共に、郷友会の新たな会員を増やすきっかけづくりに行きたいと思えます。

参加者の皆さん、ありがとうございました。

【追伸】
十一月十二日(月)快晴
「連泊者と青ヶ島組の行動」
オプシオンで青ヶ島へ行くことを企画していましたが、交通手段が天候次第ということも



あり、十名の希望者には団体で行くことは難しいと判断し、中止としました。しかし、私を含め二名は当日出航可能であれば行く予定で連泊しました。しかし、当日は明け方まで雷鳴や稲光が走り、気がかりな朝を迎えました。早速、天気予報や青ヶ島の宿の主人に電話を入ると、うねりがあり、今日来ることはできても翌日欠航した場合、二泊目以降は満室であることを伺い、今回はやむなく断念することとしました。

そのため、連泊組十三名はそれぞれ四組に分かれて、前日に引き続き島内観光を楽しみました。

【町役場との交流】
郷友連合理事 白井裕造 司会・八丈町総務課

山越課長 場所・八丈町役場会議室 日時・十一月十日午後一時四十分

総務課 山越課長 スライドを使いながら、山越課長より、次のとおり、八丈町について説明がされた。なお、人数分のアシタバ茶缶飲料が配られた。

(1)八丈島概要
八丈島の地勢 八丈島と八丈小島で構成。八丈島の大きさは、山手線一周と同程度。
ひよっこりひょうたん島のモデル島
北西部の八丈富士と南東部の三原山、二つの火山を擁する。

3年前からザトウクジラが出没するようになった。十一月〜四月の時期に目撃され、岸から目撃できることもある。

東京海洋大学とのザトウクジラ共同調査がNHKおはようニッポンで報道され、同報道をスクリーンで上映した。

(4)八丈町役場の新庁舎平成25年5月に新築・供用開始(平成23年7月着工)462席多目的ホール「おじゃれ」1階部分の座席が格納可能で、災害時利用等も可能。

(5)八丈町のふるさと納税

東京海洋大学とのザトウクジラ共同研究について、寄付型のクラウドファンディングを紹介。

二、質疑応答
(1)教育に力を入れていると聞いているが、教育環境の整備について(梅田)

八丈方言がユネスコの消滅危惧方言とされており、島言葉の伝承を学校で取り組んでいる。八丈太鼓もカリキュラムに入れている。小・中学校連携教育 地区ごとに連携する取り組み。

都立八丈高校の魅力化

プロジェクト 農業・園芸についての発信
(2)資料館に八丈実記(近藤富蔵)について、コンバクトにまとめたもの(秋廣)などはあるか
資料館は、耐震化の問題があり、歴史民族資料館は閉館している。八丈支庁に展示ホールを設け、厳選した展示を実施している。コンバクトにまとめたものはないが、現在、島史の改訂を検討している。

(3)八丈島の産業構造の変遷はあるか(大澤)
産業構造については、従来から変動がない。
(4)空港でみたアロエは、食用等の利用はないか(大沼)

そのような取り組みについては具体的にはない。八丈島は、冬場はアロエの花が咲くが、夏場は沿道にハイビスカスが咲く。一年中花が咲いているというのが八丈島の特微である。



我が島の一押し②

三宅島郷友会 高松 英夫 監事



【太宰治が来島したこと】

三宅島にあの太宰治が行った？多くの方が驚かれるのも不思議ではないでしょう。しかしそれを証明するものがあるのです。

その一つには、五年後発表の短編小説「小さいアルバム」一九四二年（昭和一七年）の中で活写しており、二つには火口湖・大路池（たいろいけ）池畔に憩う太宰の写真が、月刊「太陽」（平凡社）九月号、一九七一年（昭和四六年）に掲載されていて、それを裏打ちしていたからである。

もつと他に資料になるものはないか。全集本の多くの年譜を探しても渡島のことは記載されていない。昭和一二年五月に三宅島に渡ったことになつてはいるが、水上温泉で小山初代と自殺を図つたものの未遂に終わった事は事実であり、そこで止まっていた。何故だろう、疑問の残るところだが、今は筆をすすめない

た。浅見淵、井伏鱒二、太宰治、秋沢三郎、永松定、塩月起として芝浦の港から合流した川崎長太郎の七名が五月中旬のある日の夜、海を渡ったのである。今のように飛行機が飛ぶわけでもない、船も毎日運航しているわけではない。

一週間程の滞在が一番最初に音を上げたのは太宰だったとの記録があるだけで、詳細を示すものは残念ながら手元がない。

今大路池は、太古からの水を満々と湛えて静かに厳冬を迎えている。時折アカコッコの鳴き声が行き交っている。喧騒の都会を離れ、池畔に立つて太宰治を偲びつつ「小さいアルバム」を口ずさむのも一興ではないでしょうか。是非お勧めします。また池の入口近くにある「アカコッコ館」にも立ち寄っていただきたいと思ひます。二〇〇〇年噴火の様子も近くで見てもらいたいところですが念願の許可が下りたばかりで、現在整備を進めておりますので今しばらくお待ちください。

利島村役場協賛

「バーベキュー大会」は今年も大盛況

利島会事務局長 前田 清

国営昭和記念公園で 利島文化の華が咲きました。

空はどこまでも晴れわたり、ほほをなでる爽やかな風は願ってもないバーベキュー日和となりました。

「つばき・さくゆり伊豆利島」のぼり旗がはためく中、午前十時、バーベキュー会場には六十名余りの利島出身者、利島応援ファンが集いました。生徒を思う多くの恩師とかつての生徒たちとの再会が今年も実現しました。

利島の小さな学校が舞台の物語は、長い時を超えて今年も強い絆でつながりました。みんなそれぞれが人生を力強く歩んできました。これから秋が過ぎ、冷たく厳しい冬がやってきますが今日を楽しくもう、みんなの笑顔がそう語っていました。さざえ、明日葉、磯もの、くさや、たかべ、赤飯の食材、利島産さくゆり焼酎、利島出身者と先

利島総合サービス有限公司 代表取締役 宮本綾子様 株式会社共栄建設 代表取締役 渡邊和男様 利島ふぁーむ株式会社 代表取締役 前田清様 継続することは大きな力となります、来年もこの会場に多くの利島出身者と利島ファンが集えるよう、利島会活動の一年がまた始まります。



恋し懐かし 神津島

神津島郷友会 会長 山田 恵照

私は十五歳で島を離れ六十二年経っているが、ふる里をひと時も忘れることはない。大島から小笠原まで、島々は全部渡つて来た。その中でもわが島は最も魅力的だと思つている。

島の暮らし、島民の生計の八〇％は漁業である。特産としての金目鯛をはじめ、昨年度の漁獲量は八〇万二千キログラム、漁獲金額は十三億三千万円、この五年間はその前後で推移している。船隻数一三三三、総トン数九八二、漁業組合所属組合員数は正准合わせて三五六人である。五トン〜二〇トン未満が主力漁船である（漁協調べ）。人口一、八六五人を有する島としたらどうなんでしょう。

島の海産物

魚類（金目鯛、たかべ、女鯛、むつ、その他）。水産動物（いか類、伊勢海老、その他）。藻類（天草、とさか海苔）。大野忠一、漁協組合長（当時）は、築地市場で神津島の伊勢海老で築

地の相場が決まるのだと話していた。私が向島百花園へ行った折、近くの甘味処の店に入ると机上に丁寧に書かれた文字が目にとまった。「当店のトコロテンは神津島の天草を使用しています。とあつたので店主に訊を問うと、築地の海産問屋で、「天草の一番上等の物が欲しい」と言う、と、神津島の天草が一番だと勧められ、好評なので今も使用しているとのことだった。海産物が比較的豊富なのは、島の五つの山から海へ流れ出る水が影響していると言われている。

黒曜石の最古の利用例は、東京都府中病院敷地内で発掘調査されている良質の黒曜石は、西南に五km離れた恩馳島の海に露出している。今特産の黒曜石を加工品として活用しようとして石田史夫さんが事業化へ努力している。

「神津島トレッキングと温泉の旅」へ延べ三百人以上は引率しただろう。漁師たちは三崎港、銚子港、石巻港などへ寄港し、その土地の唄を神津島へ取り入れ、歌や踊りにして四つの網元で競うように大漁を祝っていた。記憶も七〇年前である。昔を知る人が少なくなつたが民の詩、民謡は是非伝え続けてほしいと切に願っている一人です。

八丈島名前の由来 八丈島の歴史を探る前に八丈島の名前の由来を探ってみよう。諸説あるがその中で解りやすく、納得のいく説を二つ紹介します。一つ目は八丈島特産の絹織物（黄八丈）の絹反物の長さの単位からきているとの説。八丈の絹織物は二分あり八丈に相当する。一丈は約三メートルであり八丈は約二四メートルとなる。これは江戸時代の国学者本居宣長の書「玉勝間」に記されている。八丈絹は平安時代より献納されており、江戸時代には黄八丈が主要な貢物となった。二つ目の説は、八嶽島



歴史発掘④ 八丈島

八丈島郷友会 理事長 菊池 順

（やたけ）から八丈島になったと言うもの。八丈はやたけと読むことが出来る、伊豆諸島の八番目の島である。大島・利島・新島・式根島・神津島・三宅島・御蔵島・八丈島となる。

他にも色々の説がありますが、今回は私が気に入っている説をご紹介します。

八丈島郷友会 理事長 菊池 順

あけましておめでとう
ございます。
故郷を離れて活躍され
ている伊豆諸島小笠原諸
島出身者を繋ぐ架け橋と
して、また、故郷振興の
懸け橋になりたいという
共通の思いから、今日ま
で郷友連合会の運営を維
持発展させていた。いた
諸先輩方の苦勞にあらた
めて敬意を表します。
さて、郷友連合会では
平成三〇年度は以下の重
点課題を目標に掲げ、専
門部を中心に活動してい
ます。

■島めぐり旅行の継続
今回で十四回目となっ
た親睦旅行は、十一月十
く十二日に五十四名が参
加して八丈島旅行を実施
した。早くから準備をス
タートさせたことで多く
の方の参加につながり、
自然、文化、歴史につい
て説明を受けると共に、

観光、農業、漁業、商業、
教育、福祉などへの諸課
題の取り組みを伺った。
■魅力ある広報活動の推
進、広報活動の中核を担
う連合会だよりでは、各
島の埋もれた情報を積極
的に収集し、発信する努
力を続けている。
夏号では(1)躍動感
溢れる八丈島のザトウク
ジラの来遊は新たな観光
資源として期待されるこ
と。(2)平成二十七年
からスタートした「歴史
発掘」では、御蔵島独立
のために働いた利島生ま
れの船頭彦四郎の功績を
不朽に伝える記念碑を紹
介。(3)小笠原諸島返
還五十周年記念に際して
小笠原諸島の歴史を振り
返った。
そして(4)戦前には
豊かな暮らしが営まれて
いた硫黄島の現状を報告
した。
新年号では(5)資源

の有効活用と島おこしに
つなげる伊豆諸島初の地
ビル造りへの挑戦を取
材した。
また(6)各島のイメ
ージと全島名を挿入した
伊豆諸島への応援歌「憧
れの伊豆諸島」を紹介す
る、など島の歴史、文化、
芸能を伝えるとともに、
島の新たな取り組みも紹
介した。
■財政基盤の改善
連合会の活動領域を広
げるため、財政基盤の整
備が必要であるとの判断
から、前年度に引き続き、
プロジェクトチームを中
心に改善の具体化にむけ
て検討を進めている。
(1)夏号より島の商店・
会社にお願ひして広告掲
載を本格的にスタートさ
せた。
また(2)活動を広く
知ってもらい、かつ連合
会を社会的信用力向上に
つなげるためホームページ



島出身者がいる法律事務所
相続、離婚、交通事故、不動産、債権回収など、幅広い
法律問題を取り扱っておりますので、お任せ下さい。

遺言書作成のススメ
相続のご相談が多くなっております。遺言書の
作成方法について、ご相談、アドバイス致します。

九段坂総合法律事務所
弁護士 秋廣道郎(大島) 弁護士 白井裕造(大島)
東京都千代田区九段北 1-3-5
ユニソ九段北一丁目ビル5階(最寄駅:九段下駅)
TEL.03-3515-8640 FAX.03-3515-8643
メール akihiro@kudanzaka-law.jp

建設業

山田建設株式会社

代表取締役 清水敏行

〒100-0101 東京都大島町元町2丁目9番16号
TEL 04992-2-2261
FAX 04992-2-1750



その奥に父島と連なる父
島列島が飛び込んでしま
した。島々が連なる姿は、
馴染みのある伊豆諸島と
は違う新鮮な光景でし
た。父島到着後、更に二時
間「はじま丸」に乗り継
いで母島へ。雄大な自然
を残しながらも観光地と
して整備された印象を受
ける父島と比べ、母島は
手つかずの自然を守って
いる島でした。鯨ヶ崎展
望台から見た水平線と雲
を茜色に染めた夕日の美
しさは忘れられません。
法律相談会の業務を行
い、二日目終了しまし
た。

平成三十年十一月二十
一日から十一月二十六日
までの日程で、小笠原諸
島母島及び父島を訪問し
たのでご報告します。
私は、これまで父親の
郷里である大島を初めて
として、伊豆諸島での法律
問題について弁護士とし
て関わらせて頂いていま
すが、この度、所属の弁護
士会が小笠原において出
張法律相談を実施するこ
ととなり、委嘱を受けて
小笠原諸島訪問の機会を

得ることができました。
一日目は、午前十一時
に竹芝桟橋を出航して終
日船内。ご存知のとおり、
父島は東京から約100
0 km南に位置しています
が空路は未整備です。そ
のため、片道二十四時間
の「おがさわら丸」による
移動となりました。
二日目は、午前十一時
に父島到着。父島への到
着間際の船内アナウンス
を聞き、甲板に出てみた
ところ、弟島、兄島、西島、

三日目は、午後一時三
〇分の父島行き出港時刻
までの間、母島南部を巡
りました。都道の最南端
は母島にあり、ここより
先には舗装された道はな
く、更に南端に繋がる遊
歩道が伸びているだけで
す。天候にも恵まれた中
で、固有の植物や鳥を探
しながら、さながらジャ
ングルのような森の中の
遊歩道を進むのですが、
遊歩道の入口や道中に
は、泥落としや酢のスプ
レーが設置されていま
す。これにより、外部の種
子や生物が入り込むこと

を防止し、固有種を保護
しているようです。その
後、母島列島の各島が見
渡せる絶景の小富士、美
しいサンゴの浜の南崎
海岸や蓬萊根など景観
のよい名所を巡ること
ができました。
父島に戻り、法律相談
会の業務を行い、夜は父
島の事業家の常盤隆二さ
んにご案内いただき、父
島の名店で島寿司やウミ
ガメの煮込みなど郷土料
理に舌鼓を打ち、カラオ
ケで「憧れの伊豆諸島」の
小笠原替え歌バージョン
などを教えていただくな
ど、大いに盛り上がりま
した。
四日目は、午前八時に
小型船で父島西沖に乗り
出して、「シートタック」さ
いのドル
フィンスイ
ムツアーに
参加しまし
た。天候が
崩れ、父島
南西に位置
する南島上
陸こそ叶い
ませんでした
が、幸運
にも数十頭
のミナミバ
ンドウイル



▲母島・小富士頂上から
見える南崎海岸と筆者



力、一〇〇頭を超えるハ
シナガイルカの群れと遭
遇することができたのは
貴重な体験でした。夜は、
再び常盤さんにご案内い
ただき、「チャリーブルー
ウン」にて、シカクマメの
天ぷらなど島の食材・島
の料理を楽しませていた
だきました。夜の港で
は、桟橋の街灯に寄って
きた絶滅危惧種のシロ
ワニ(サメ)という貴重
な小笠原の海洋生物に
も出迎え、四日目が終わ
りました。

五日目は、小笠原水産
センターでウミガメを始
めとする小笠原諸島の海
洋生物を鑑賞し、小笠原
ビクターセンターで独自
の進化を遂げた多種多様
なカタツムリとその絶滅
危惧種を鑑賞しました。

六日目は終日船内で、
午後三時三〇分に竹芝桟
橋に到着しました。
今回、初めての訪問で
したが、小笠原諸島の
自然と人の魅力、小笠原
の現状の一部を知ること
ができました。特に、船の
寄港が週に1回であり、
人も物も移動が限られて
いる状況の中で、来島者
を暖かく迎えるおもてな
しの気持ちは大変嬉しく
感動し、再び小笠原の地
を踏める日を楽しみにし
ています。

- 1.人々が安心して働ける企業
- 2.島の発展に奉仕する企業を目指しております「社訓」より

三宅島建設工業(株)

【本社】 〒100-1103 東京都三宅島三宅村伊ヶ谷 333
 電話 04994-2-0163 FAX04994-2-1137
【東京支店】 〒105-0012 東京都港区芝大門 2-5-1
 アルテビル芝大門
 電話 03-3459-8086 FAX 03-3435-9687
【出張所】 〒100-1301 東京都御蔵島村
 電話 0499-8-2229 FAX 04994-8-2323



土木・建築工事一式請負、生コンクリート製造販売
 アスファルト混合物製造販売、セメント・建材販売
 〒100-0211 東京都大島町差木地字クダッチ無番地
TEL 04992-4-0511
FAX 04992-4-0567



村松興業株式会社



木造注文住宅・建築設計施工 増改築・サッシ販売
株式会社 間仁田建設 代表取締役 間仁田 聡
 株式会社 間仁田建設一級建築士事務所
 東京都知事登録第44060号
 三根1948番地5 **TEL 2-0087(代) FAX 2-1528**
 E-mail info@manita.co.jp ブログ http://shoden.ddo.jp~manita/

株式会社 花月堂

代表取締役
結城 義文

〒111-0032 東京都台東区浅草 2-7-13
TEL & FAX 03-3847-5251
 E-mail mail@asakusa-kagetudo.com
 URL http://www.asakusa-kagetudo.com



電気工事は
 おまかせ
 ください

浅沼電機商会有限公司

代表取締役 浅沼 汪 〒100-1101 東京都三宅島三宅村神着1862
TEL 04994-2-0395 FAX 04994-2-0997

いつでもどこでも 石工事施工します

株式会社 ホーヨーでは皆様からの信頼と繊細な技術で
 創業以来、数々の工事を受けさせていただいております。
 神津、湯響寺での施工実績50件以上！
 その他毎年、埼玉・横浜でも数多くの施工依頼をいただいております。

弊社取扱優良霊園のご紹介

- | | |
|--|--|
| 【埼玉県】
●富士見メモリアルガーデン
●大宮霊園
●和光聖地霊苑
●仏子聖地霊園 | 【神奈川県】
●メモリアルサンステージ
●横浜セントヒル霊園
●横浜浄苑ふれあいの杜
その他、多数の霊園を取り扱っております。 |
|--|--|

取扱い寺院 埼玉県

- 広源寺：曹洞宗
- 清泰寺：天台宗
- 昌福寺：曹洞宗

取扱い寺院 その他

- 光明院：真言宗
- 大増寺：浄土宗
- 法受寺：浄土宗
- 龍華寺：真言宗
- 自性院：真言宗
- 法雲寺：曹洞宗

株式会社 ホーヨー

代表取締役 清水 邦洋

【本 社】 埼玉県富士見市水子4718-1
 〒354-0011 本社 ☎ 0120-660-089
 FAX 049-255-7068
 URL http://www.ishio-hoyo.co.jp/

土木一式工事・建築一式工事 ツバキ建設株式会社

〒100-0212 東京都大島町浪浮港 17
TEL:04992-4-1666
FAX:04992-4-1160

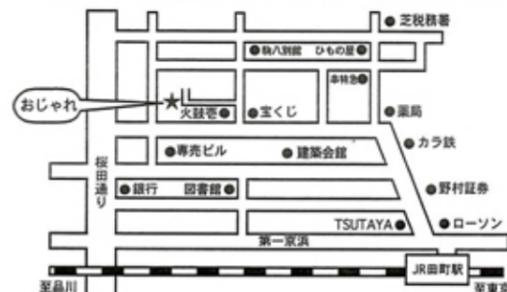
印鑑・ゴム印・名刺作成・はがき・封筒
 チラシ・伝票類・名入れタオル カレンダー
 カラーコピー・パウチ

オフィスYK

山口 勝子
 〒359-0045 埼玉県所沢市美原町3-2950-3
TEL 04-2946-7571
FAX 04-2946-7581

春夏秋冬 おじゃれ

店主 沖山 孝治
 〒108-0014 東京都港区芝 5-24-7
TEL & FAX 03-3452-5685



総業 昭和4年 三宅島酒造株式会社

代表取締役 長谷川 悦郎
 〒100-1101 東京都三宅島三宅村神着1198番地
TEL.04994-2-0415
 URL http://www.oyama1.tokyo/